

# 長谷川鉄工

代表取締役社長

小野 良二



当社は産業用冷凍機事業と冷熱エンジンアリング事業を2本柱としています。昨年来の事業動向では冷熱エンジンアリング事業が好調です。特に国内で受注が伸長しています。自然冷媒化、省エネ

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

## 第2世紀始動の年、第3の成長事業を

施工部門は年間を通して繁忙が続いています。こうした中、社内での業務量偏重を回避すべく、現在は製造部門での生産改革、多能工化で実効を上げ、製造部門の人員を瞬発的に施工部門の増員に充て、生産性と収益性

たことも、受注の受け皿の拡大につながりました。半面、冷凍機の販売は市場占有率が高い漁船搭載用途での出荷台数が減少していま

ARUS(カールス)、高効率陽圧除湿空調システム「D EMS(ディームス)」など、

す。特に海外向けの輸出台数が軟調です。新造船案件の減少が主因ですが、台湾、タイ、

自社開発の冷熱アプリケーションや自然冷媒ユニットが採用されたこともプラス材料です。開発力がお客様にご評価

ベトナム、インドネシア、フィリピン、モンゴルなどの主要輸出国へ当社の社員が直接出向き、代理店の営業支援に動く機会がコロナ禍で失われていることも響いています。

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

第2世紀には冷熱2大事業を骨格としながら、第3の柱となる成長事業を見いだし、育てる構想を温めています。

当社は22年8月に法人設立起算で100周年を迎え、社歴として1世紀を終えます。22年は第2世紀が始まる年でもあります。

当社は22年8月に法人設立起算で100周年を迎え、社歴として1世紀を終えます。22年は第2世紀が始まる年でもあります。

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

第2世紀には冷熱2大事業を骨格としながら、第3の柱となる成長事業を見いだし、育てる構想を温めています。

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

第2世紀には冷熱2大事業を骨格としながら、第3の柱となる成長事業を見いだし、育てる構想を温めています。

流倉庫、製氷プラント向けの用途のみならず、食品、化学、凍結乾燥などの分野にもさらに販路を広げる活動を強化します。

当社は22年8月に法人設立起算で100周年を迎え、社歴として1世紀を終えます。22年は第2世紀が始まる年でもあります。

第2世紀には冷熱2大事業を骨格としながら、第3の柱となる成長事業を見いだし、育てる構想を温めています。

当社のコア技術は自然冷媒のアンモニアを圧縮・保存・再液化する技術です。コア技術をテコに隣接市場の開拓を目指し、アクションプランの具体化に取り組みます。

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を

約7年間継続してきた社内意識改革の成果が着実に現れ、前期(2021年9月期)決算では増収増益を